

・ 冒頭で考えたことを披露することになった。遠慮なく指摘ができる関係など理想として言葉は浮かぶけど、具体的にどんなもんかと言われると思いつかないが正直なところではありました。これってやりたいことなのかな、このように言っておけばその場が収まるから言っているだけなのかなという気持ちもなくはないとあとから思いましたが、そういう気持ちが湧く程度にはまだよくわかってないし、やりたいことなのかと考える必要があるように思う。また、頑張る場、自己研鑽の場としてしまうことがよくないのでは、と言う発言があって、確かに10年プロジェクト内ではできるけど外だとできない、もしくはその逆もあるように感じた。ただそれをみんなに刺さるような形でいうことができないのが私の今なので、どうやったら伝わるのかをもっと試行錯誤しなきゃいけないと思った。

今回は2つセッションがあり、1つは会社のミッションを決めるという会議のメンバーに同期がいてざわついた、別に今それはやりたいことではないのになぜだろうというような話。コーチは比較的率直にクライアントに問題点について伝えていたように見えたが、あまりクライアントに届いているようには見えなかった。あとで、陽子さんから自分のやりたいことをやる上で同期が経営層に入ったら融通がきくのではないかと、というコメントがあって、大企業だとそういう意思が入らないようになされているのではないかなと思いつつも、一考の価値はあるよなと思った。陽子さんがいうから、というのももちろんあるのだろうがクライアントはそれで考え込むようになっていた。誰がいうか問題になってしまうのかなあと思いつつ、**コーチにもバックグラウンドが活かせる話題があったのでは、というコメントに、常に自分だからできる何かを考えておく必要があると思った。**

2つ目についてはいわゆる上司なのだけれども先輩と呼んでしまう話で、実は求めている役割があるのではないか、という内容で、結局最初にコーチになった人だけではなく、もう1人もコーチをやっていた。

2つのセッションともに何か解決したいことがあるわけではないと陽子さんが総括されていたが、普段そういう会話って結構多くある。しかし、そうなったときによくわからないと違和感を持って言えることが大事なんじゃないか、というコメントがあった。その場の言ったらどうしよう、という不安ではなく、将来的にどうして行きたいのか、共感や理解をしようと思う必要はないけれども、それらはあったほうが相手は話はしやすいという内容については個人的には思い当たる点があった。理解はできないけどそういう考え方もあるんだね、という感をどうやったら出して安心感を持ってもらえるか、もう少し考えて行きたいと思う。

ありがとうございました。

(30代女性 千葉県)